

令和 6 年 5 月 20 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00407

研究課題名（和文）戦後アメリカにおけるサリンジャーの隠遁と創作の意義 遺稿の受容に向けて

研究課題名（英文）The Significance of Salinger's Seclusion and Creativity in Postwar America:  
Toward the Reception of His Unpublished Works

研究代表者

竹内 康浩 (Takeuchi, Yasuhiro)

北海道大学・文学研究院・教授

研究者番号：40251376

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：J.D.サリンジャーの遺族によって予告されていたサリンジャーの未刊行作品の出版は、残念ながら今研究課題の遂行中に実現されることはなかった。しかしながら、『ザ・キャッチャー・イン・ザ・ライ』『ナイン・ストーリーズ』『シーモア序章』あるいは雑誌にのみ発表された諸作品を読み解くことにより、サリンジャーが禅仏教から受けた影響を、これまで以上に詳細かつ深く解明することができた。特に、松尾芭蕉の俳句における音の描写にサリンジャーが生と死を超越する契機を見出していた、という事実の発見は重要である。この観点は、今後、未刊行作品が公表された場合に、基礎的な出発点になるであろう。

研究成果の学術的意義や社会的意義

上記の研究成果の概要に加え、本研究では米国乳ヨーク州ニューヨーク市ザ・モーガン・ライブラリー・アンド・ミュージアムで実施したサリンジャーの手紙原稿の調査により、これまでのサリンジャー研究において看過されてきたサリンジャーと装丁画家であるマイケル・チツェル氏の関係についての新たな知見を得ることができた。著作権が厳しく管理されている文書であるため、その取り扱いは慎重でなければならないが、少なくともその研究成果は、サリンジャー作品をジェンダー・セクシュアリティの観点から発展的に読み直せることを示唆しており、今日の社会における多様性の議論に寄与するものとなるであろう。

研究成果の概要（英文）：The publication of Salinger's posthumous works, which had been announced by the family of J.D. Salinger, unfortunately did not materialize during the course of this research project. However, by reading his major works such as *The Catcher in the Rye*, *Nine Stories*, *Seymour's Introduction*, and other works published only in literary magazines, my research elucidated the influence he received from Zen Buddhism in more detail than ever before. Of particular importance is the discovery that Salinger found in Matsuo Basho's haiku the opportunity to transcend life and death. This perspective will serve as a starting point for future publications of his unpublished works.

研究分野：米文学

キーワード：サリンジャー 禅仏教

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

J.D.サリンジャーの死後数年、大量に遺されたとされる未公開原稿を遺族であるマシュー・サリンジャー氏が順次刊行する予定である旨の報道が、作品の概要も含めて具体的な形で、国内外でなされた。サリンジャーの後期作品は神秘主義思想に傾斜し、難解なことで知られており、その後にかかれた遺稿はさらに難解なものであることが予想された。それゆえ、その受容が今日的な文脈の中で適切になされるための研究が必要となった。

### 2. 研究の目的

(1) 20世紀アメリカ文学を代表する作家 J.D.サリンジャーの長編小説『ライ麦畑でつかまえて』に、西洋の神秘主義思想や俳句や禅仏教などの日本文化が与えた影響を論じた申請者の研究成果を、サリンジャーの短編・中編の研究に接続することで、なぜ作家が戦後アメリカで隠遁生活を送ったのかという問いに答えることを本研究の一つの目標とした。

(2) 作品世界から姿を消したシーモアと、社会から姿を消した作家との間に類比性を見だし、最終的には、前者に関わる問い(なぜシーモアは死んだのか)に答えることで、後者の謎(なぜサリンジャーは姿を消したか)に迫ることを研究の目的とした。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究では、明示的に説明されぬまま姿を消した二人の人物(作者のサリンジャーと作中のシーモア)を研究対象としたため、刊行が予定されている遺稿の調査や米国図書館に所蔵されているサリンジャーの手紙などを調査することを通して、いわば「説明の空白」を埋めていくという手法を目指した。

(2) 予期せぬ疫病の流行で米国における文献調査を大幅に縮小せざるを得なくなったため、文献調査はモーガン・ライブラリー・アンド・ミュージアムでの書簡調査にとどめ、その他は、刊行済みの諸作品における禅仏教および日本文化の影響の痕跡をたどっていくという方法をとることとなった。

### 4. 研究成果

(1) モーガン・ライブラリー・アンド・ミュージアムで実施したサリンジャーの手紙原稿の調査により、これまでのサリンジャー研究において看過されてきたサリンジャーと装丁画家であるマイケル・チツェル氏の関係についての新たな知見を得ることができた。ただし、サリンジャーの書簡調査の具体的な内容については、著作権の関係上、直接的に公表することは許されていない。しかし、この研究成果は間接的に、サリンジャー作品全般をジェンダー・セクシュアリティの観点から発展的に読み直す際の指針となるものであり、ひいては今日の社会における多様性の議論に寄与するものになるはずである。

(2) 『ザ・キャッチャー・イン・ザ・ライ』『ナイン・ストーリーズ』『シーモア序章』あるいは雑誌にのみ発表された諸作品を読み解くことにより、サリンジャーが禅仏教から受けた影響を、これまで以上に詳細かつ深く解明することができた。特に、松尾芭蕉の俳句における音の描写にサリンジャーが生と死を超越する契機を見出していた、という事実の発見は重要である。サリンジャー作品には、様々な場面で、象徴的な音が響き渡ることがある。登場人物が「自殺」するときの銃声、あるいは事故死するときの悲鳴、あるいは歓喜するときの歓声などを、松尾芭蕉の俳句との関連において理解することで、サリンジャーの死生観を説得的な形で明らかにすることが出来た。その研究内容は、『謎ときサリンジャー』(新潮社 2021年)の一部として、いち早く公表され、社会に研究成果を還元することが出来た。

(3) 特に上記の書籍の第二章が明らかにしたのは、サリンジャーが禅の公案(隻手音声)を短編「バナナフィッシュにうってつけの日」において明確に意識し、その女性登場人物の片手あるいは片足をことさらに描写しているという事実である。その人物が何気なく行っている数々の行為が、両手あるいは両足ではなく、ことごとく片手あるいは片足によってなされていることは、その結末における銃声に至るいわば準備なのであった。そのような観点から、結末の銃声を捉え直すことで、サリンジャーがこの作品で隻手音声の公案に対する一つの答えを提示していることが明らかになった。

(4) 芭蕉の俳句を経由することで、サリンジャーの特異な時間観が明らかになった。サリンジャーはシーモアの自殺から一連のグラスサーガを始めたが、最終的には「ハプワース16, 1924年」という謎めいた作品で、時間を逆行するかのようになり、まだ幼児だったシーモアを描くことで事実上の作家生命を閉じた。サリンジャー作品を構成するこのような時間軸は、これまでの読者を困惑させるだけのものではあったが、芭蕉の俳句に表現されている時間観を、禅仏教者であ

る鈴木大拙が芭蕉について論じている著作を経由することにより、そのような時間構成が禅仏教の影響の元でなされていることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 竹内康浩
2. 発表標題 『謎ときサリンジャー』をめぐる
3. 学会等名 日本アメリカ文学会北海道支部大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 竹内 康浩、朴 舜起	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新潮社	5. 総ページ数 272
3. 書名 謎ときサリンジャー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------